

臼田協働まちづくりWS 安全グループの提言(案)

3 安全・安心・やさしいまちづくり

佐久総合病院西側道路の歩道整備

佐久総合病院西側の市道は歩道が設置されてはいるが、車道より高い位置にあるため車道からの傾斜がきつく、幅員も十分ではないことから車いすでの利用が快適であるとはいえない現状である。

佐久総合病院の再構築後は、病院敷地内及び病院周辺地域をリハビリのために有効的な利用を図り、回復に寄与できる環境を整備すべきである。

1. コンパクトシティ内の歩道の傾斜を緩やかにし、車いすでもすれ違い可能な3.5mの幅に整備すべきである。特に、臼田中央交差点から下小田切交差点は、両側に歩道の整備をすべきである。
2. 病院敷地から中央商店街に、車いすでもアクセスできる歩道の整備をすべきである。
3. 歩道には、環境にやさしい自然エネルギーを利用した安全灯を設置すべきである。

佐久総合病院東側道路の拡幅整備

佐久病院本院東側道路は、現在多くの車両が通行し来院者の利用も多いが、幅員が狭く車両のすれちがいがスムーズにできない。また、歩道がないため歩行者の安全が確保されているとはいいがたい現状である。

佐久総合病院の周辺は、今まで以上にリハビリ環境の充実が求められることから、病院東側道路を拡幅整備し、車いす利用者やリハビリ患者が安全に利用できる歩道を整備すべきである。

1. 佐久総合病院東側道路は、センターラインがあり、車両同士が安全にすれ違いできるよう拡幅すべきである。
2. 道路脇に車いすが安全にすれ違いのできる幅3.5mの歩道を設置すべきである。

3. 歩行者の安全を確保するため、環境にやさしい自然エネルギーを利用した安全灯を設置すべきである。

4. 道路脇に桜並木を設置することが望ましい。

河川敷遊歩道と歩道橋の設置

千曲川にかかる臼田橋・住吉橋は、浅間山・八ヶ岳が望め、リハビリや市民の散歩コースに適しているといえる。

入院・通院患者と共に地域住民の健康増進のため、千曲川河川敷の臼田橋から住吉橋までの間、兩岸を一周できる遊歩道と半周コースも可能となる歩道橋の整備をすべきである。

1. 車いすでも安全にすれ違いできるように、歩道幅員は3.5mにすべきである。また、回復期のリハビリ患者も利用すると考えられることから、足に負担のかからないクッション性の高い素材を使用する必要がある。
2. 休憩の場として、あずまやの設置やベンチを設置することが望ましい。
3. 遊歩道の半周コースとともに、佐久総合病院の入院患者と小中学校との交流を推進するためにも、千曲川に歩道橋を設置をすべきである。この歩道橋は、車両・二輪車の進入は禁止し、車止めのゲートなどを設置し車いす同士のすれ違いが安全にできる幅にすべきである。
4. 環境にやさしい自然エネルギーを利用した安全灯を設置すべきである。
5. 河川敷であることから、千曲川の増水などに配慮し、災害対策を十分に施すべきである。

公園整備

患者と市民の憩いの場、子ども達が安全に遊べる場所として、現在の佐久病院河川敷駐車場の位置に、自然公園を設置すべきである。

1. 河川敷であることから遊具などの固定施設は設置せず、子ども達が安全に遊べるよう、石などを撤去し、小川や木を設置し自然公園的な整備をする必要がある。
2. 環境にやさしい自然エネルギーを利用した安全灯を設置すべきである。
3. 公園は千曲川の増水などに配慮し、災害対策を十分に施すべきである。

駐車場整備

河川敷の遊歩道や公園等の利用者のために、千曲川の両岸に駐車場を整備すべきである。

1. 稲荷山北の佐久総合病院職員駐車場は、稲荷山公園や河川敷公園用の駐車場として整備すべきである。
2. 現在の町史編纂室（旧公民館）を解体し、河川敷遊歩道や公園利用者のための駐車場として整備すべきである。
3. 環境にやさしい自然エネルギーを利用した安全灯を設置すべきである。